

教育学科

教育学認定心理士コース

2年生

(実技)		科目名:音楽Ⅱ・音楽実技ⅡA(教育)			講師: 花井 淑	
科目概要・目標	「音楽」で習得した音楽理論や楽器演奏等の基礎技能をふまえ、教育現場において音楽を展開する上で必要とされる、教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。具体的には、歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い(ピアノ伴奏をしながら歌う)等の技術を身につけるとともに、音楽科においての活動とその指導について実践的に学ぶ。「音楽」で理論・実技等の基礎を学んだ後、本科目を履修すること。					
教科書		「バイエルピアノ教則本」「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」「保育者・小学校教諭を目指す人のための音楽表現基礎 理論と実践の統合」				
提出課題	レポート設題 1	教育現場における音楽表現活動(園行事、学校行事等を含む)がなぜ必要なのかを述べよ。				
回数		授業内容				
第1回		ガイダンス (楽器の扱い方、教室でのマナー、授業の進め方、ピアノ進度チェック、等)				
第2回		バイエル 70～106 の未終了曲	子どもの歌 弾き歌い ①	・ 春が来た	・ 虫のこえ	
第3回		楽典 (教科書 p.75～)	〃	・ かたつむり	・ 小さな世界	
第4回						
第5回		〃	〃	・ ひのまる ・ うみ	・ タやけこやけ ・ ふじ山	
第6回						
第7回		[中間試験: ピアノ弾き歌い ①]				
第8回						
第9回		レポート対策				
第10回		子どもの歌 歌 コード伴奏 (教科書 p.234～)				
第11回		〃	子どもの歌 弾き歌い ②	・ たなばたさま ・ とんぼのめがね	・ 松ぼっくり ・ 雪	
第12回						
第13回		〃	〃			
第14回						
第15回		〃	〃			
第16回						
第17回		〃	〃	・ 茶つみ ・ とけいのうた	・ さくらさくら ・ 山の音楽家	
第18回						
第19回		DVD鑑賞 エーリッヒ・ケストナー作「飛ぶ教室」				
第20回						
第21回						
第22回		バイエル選択曲	子どもの歌 弾き歌い ②	・ とんび		
第23回		〃	〃			
第24回		[中間試験: ピアノ弾き歌い ②]				
第25回		バイエル選択曲	子どもの歌 弾き歌い			
第26回						
第27回		〃	〃			
第28回						
第29回		[後期 まとめ・発表]				
第30回						
第31回		[期末試験: ピアノ弾き歌い]				
第32回						
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。			
	期末試験	20点	課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は70%とする。			
	授業内評価	10点	中間試験: 5点×2回			
		10点	子どもの歌 コード付け伴奏: 5点×2曲			
		10点	バイエル選択曲: 5点×2曲			
		20点	レポート (下書きにおいて評価する)			
		減点	忘れ物: 減点とする (1回につき 1点減点)			
備考		弾き歌いは、教科書または他楽譜より 3 曲 (未合格のもの) を選択、そのうち 2 曲は大学指定曲から選ぶこと。個人の技量によって変更、また、授業の進み具合により内容が変更になる場合がある。				

(講義)		科目名:教育方法論(ICT 活用を含む)(初等教育)		講師: 松村久美子	
科目概要・目標	通信技術を利用して「つながる」Society 5.0 の社会に生きる子供の「個別最適な学びと協働的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に向けて、教員としての資質・能力の向上を図り、実践的な指導力を身に付ける教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を学修し、令和の日本型学校教育の学びに資する。また、到達目標は、以下の3点とする。 1.「個別最適な学びと協働的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」のもととなる「学び」について、探究し、その学びを実現するための方法・技術を活用できること。 2. 教育現場で実践されているICT の活用事例を学び、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進に生かすことができるように、学び合うこと。 3. 情報通信技術の活用の意義と理論を理解するとともに、児童に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導方法を身に付けること。				
	教科書		①柴田義松、他『教育の方法と技術』学文社。 ②文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社。 ③稲垣忠・佐藤和紀編著『ICT 活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして』北大路書房		
提出課題	レポート設題1	学習指導案(または指導計画)の意義と作成上留意しなければならないことについて述べよ。 ＜ポイント＞ 学習指導案の意義を考えることは授業の内容を考えることでもある。何をどのように指導するか。どのようなことに配慮して指導案を作成すべきかを述べるのが重要であり、一人ひとりの子どもの学習状況の実態・理解度を踏まえた指導案はどのようにして作成するのかについて述べる必要がある。 ※自分が取得を希望する免許課程に則して作成すること。 ※保育士資格のみ取得希望者は「保育原理」の教科書なども参考とし、保育士の指導計画について述べること。			
	学修のポイント1	教育方法とは何か、学習指導案とは何か			
	学修のポイント2	学校現場におけるICT を活用した授業の方法について			
	学修のポイント3	教師の指導と支援について			
	学修のポイント4	相対評価・絶対評価・自己評価・相互評価・個人内評価の意味とそれぞれの長短について			
	学修のポイント5	指導要録記入上の留意点について			
	学修のポイント6	教材研究の必要性について			
期末試験		後日授業で指示(持ち込み不可の論述試験)			
回数		授業内容			
第1回		教育方法の歴史 ソクラテス対話法から①5・6 ICT活用へ③106			
第2回		教育方法とは①105 学習指導案とは①70 コメニウス①7・8③11			
第3回		学習指導案とは何か ルソー①9-11			
第4回		学習指導案の意義 ペスタロッチ①12・13			
第5回		学習指導案の必要性 ヘルバルト①14-16			
第6回		学校現場におけるICT を活用した授業の方法③38-84-108-115-			
第7回		20世紀初頭の新教育 ①17-19 ICTだからこそできる学び③48			
第8回		日本の教育 明治期①22-24大正期①25-27昭和期①28-29			
第9回		教師の指導と支援について 集団主義①20・21学問中心①32・33			
第10回		児童中心30・31人間中心①34・35			
第11回		指導要録記入上の留意点について①151・152 授業構想(実践)① ②			
第12回		相対評価・絶対評価・自己評価・相互評価・個人内評価の意味 教育評価①138-150 授業構想(実践)③ ④			
第13回		教材研究の必要性について 教材研究①89 目標73 授業構想(実践)③ ⑥			
第14回		確かな学力を育てる授業 授業の意義①68・69学力とは136 授業構想(実践)⑦			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	15点	持ち物・提出物		
		15点	授業参加・発言		
10点		理想の授業構想(実践)			
備考		教育方法の変遷を現代的な視点で捉え直し、DX時代の授業の構想(実践)・実践方法に生かします。			

(講義)		科目名:国語科指導法(書写を含む)		講師:松村 久美子	
科目概要・目標	子どもがすこやかに育つために基本的に必要となる、「話すこと、聞くこと」及び「書くこと」「読むこと」「書写」の力を、保育・子どもの発達支援の専門家として指導できるよう、国語科の目標や内容、指導の方法の概要について、具体的な資料を通して学修する。さらに、幼児・児童の年齢相応の言語活動を具体的に探り、効果的な指導法について考察するとともに、子どもの感性を豊かに育むより良い教材について理解を深め、国語指導に関する知識・技能の習得をめざす。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校での教職経験をもち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実践を踏まえた実践的な知識を学ぶ。				
教科書		①田近洵一他『小学校国語科授業研究』 ②文部科学省『学習指導要領解説 国語編』			
提出課題	レポート設題1	幼児向けと児童向けの絵本をそれぞれ一冊ずつ選び、それらを幼児及び児童に国語指導教材として与えるときの①ねらい、目標②指導方法、指導計画③教具、学習材等について考えを示すとともに、その決定までに参考にしたことや思索したことを述べよ。 <ポイント> 1. 発達段階やねらいに合った教材の選択、研究について 2. 国語科指導の目標、内容の系統性・発展性・関連性について 3. 指導法、指導過程・計画設計の基本的事項について 4. 教具、学習材の工夫創造について			
	学修のポイント1	幼児児童の発達段階の国語力について			
	学修のポイント2	国語の表現、理解、コミュニケーション及び書写の力について			
	学修のポイント3	書写を含む国語科指導の内容の全体の理解と発達段階に即した系統、発展性の知識理解について			
	学修のポイント4	家庭、保育園、幼稚園での国語に関する指導、連携協力について			
	学修のポイント5	小学校における国語指導と幼稚園との連携について			
期末試験		後日授業で指示(持ち込み不可の論述試験)			
回数		授業内容			
第1回	幼児児童の発達段階の国語力について①182-185 レポート説明 書写実践の文字をきめる 書写指導について①108-115				
第2回	国語・国語教育とは何か①10-17 目標表現理解コミュニケーション②11-15 書写 ひらがな 水書用筆				
第3回	書写の力について ②11-15/25) ②25-27 54-56 165-166 書写 横画「一 二」				
第4回	国語の表現、理解、コミュニケーション及び書写の力について 書写 縦画「土」				
第5回	国語科の内容の全体理解と発達段階に即した系統、発展性の理解知識について 書写 はらい「大」				
第6回	A話すこと・聞くこと②28-31 ①26・27 書写 おれ はらい「力」				
第7回	B書くこと②32-35 ①27-29 126-133 書写 まがり「にじ」				
第8回	C読むこと②36-39 ①29・30 134-155 書写 むすび「はす」				
第9回	書写を含む国語科指導の内容と発達段階に即した系統 発展性の知識理解(②11-39 特に11→16→25) 書写 しんによ「みち」				
第10回	文学的文章について(①134-145) 書写実践①				
第11回	文学的文章について 書写実践②				
第12回	説明的文章について(①146-155) 書写実践③				
第13回	家庭、保育園、幼稚園での国語に関する指導・連携協力について 書写実践④				
第14回	小学校における国語指導と幼稚園との連携について 書写実践⑤				
第15回	期末試験				
第16回	科目終了試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	10点	提出物 提出期限		
		10点	授業態度		
		20点	書写実践		
備考		水書で、書写の練習をします。筆・水(空のペットボトルやコップ)・新聞紙(下敷き)をご準備ください。			

2025年度 後期

(講義)		科目名：一般教養対策講座Ⅱ		講師：室山俊浩	
科目概要・目標	公務員試験、就職試験(SPI)対策として、出題される問題を中心に解き方を学習する。				
教科書		適宜プリントを使用する。			
期末試験		授業で扱った問題から出題。			
回数		授業内容			
第1回		問題演習			
第2回		問題演習			
第3回		問題演習			
第4回		問題演習			
第5回		問題演習			
第6回		問題演習			
第7回		問題演習			
第8回		問題演習			
第9回		問題演習			
第10回		問題演習			
第11回		学園祭読み替え(休講)			
第12回		学園祭読み替え(休講)			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		問題演習			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	授業で扱った問題から出題する。持ち込み不可。		
	授業内評価	30点	授業内態度		
備考					

(講義)		科目名:教職教養演習Ⅰ(全科:国語)		講師: 松村久美子	
科目概要・目標	教員採用試験学科試験の出題、頻出内容を確認することによって、繰り返し学習が必要な学習内容、分野を知る。授業においては、参考書、セサミノートで知識の定着を図り、問題集で実践力をつけ、テストで定着を確認していく。				
教科書	教員採用試験対策 参考書 問題集 セサミノート(東京アカデミー)				
期末試験	定着度 学習指導要領＋学習内容の確認テスト(参・セ・間)				
回数	授業内容				
第1回	漢字の基本 部首と筆順				
第2回	熟語の基本・三字熟語				
第3回	四字熟語				
第4回	ことわざ・慣用句				
第5回	故事成語				
第6回	文法 品詞の種類				
第7回	文法 誤りやすい品詞 品詞の識別				
第8回	敬語				
第9回	文学史 三大和歌集 中古・中世 近世				
第10回	文学史 近代				
第11回	文学史 詩 近代短歌 近代俳句				
第12回	現代文 近代詩				
第13回	和歌と近代短歌				
第14回	俳句				
第15回	総合問題				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	10点	テキスト等の持ち物		
		15点	授業中の態度		
15点		サブノート・問題集への取り組み			
備考	期末試験は参考書・セサミ・問題集の国語の全範囲から出題します。学習指導要領部分も含みます。授業で扱えなかった問題にも家庭学習で取り組んでください。備考欄の問題番号は目安です。計画的に家庭学習を進めてください。毎回確認テストをします。				

(講義)		科目名:算数科指導法		講師:松村 久美子	
科目概要・目標	本科目は、教育職員免許法で定められた「教職に関する科目」の一つである「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。この科目は小学校での算数科の指導法について学習する。小学校学習指導要領算数科の目標及び内容を踏まえるとともに、算数科において目指す資質・能力を身に付けさせるための不断の授業改善に取り組むことが求められている。この科目を学ぶことにより、授業のための教材研究、下位目標行動の分析、児童の実態調査、学習指導案の作成、模擬授業、評価などを内容とし、研究授業の初歩を習得することができる。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校での教職経験をもち、大学院では各教科の教育方法を学び、長年障害児療育・学習支援に携わってきた講師のもと、教育現場の実際を踏まえた実践的な知識を学ぶ。				
教科書		①文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』東洋館出版 ②土屋修・佐々木隆宏『算数教育の基礎がわかる本』(③④『教科指導法シリーズ小学校指導法算数』)			
提出課題	レポート設題 1	算数科の授業づくりのポイントと手順・実態把握の方法について述べよ。 ＜ポイント＞ 小学校学習指導要領算数科において重視されている、数学的活動を通して基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力、表現力、学習意欲というポイントを押さえる。また、指導案作成の基本的な手順と子供の実態調査の方法についてまとめる。			
	学修のポイント1	指導案の作成の流れについて			
	学修のポイント2	算数科の授業の組み立てについて			
	学修のポイント3	指導計画と評価計画について			
	学修のポイント4	本時の指導と板書計画の作成について			
	学修のポイント5	本時の指導の展開について			
期末試験		あなたが目指す算数科授業のあり方とは			
回数		授業内容			
第1回		指導案作成の流れ	②266－282	実践授業を決める	
第2回		算数科の授業の組み立て	目標②57 評価	指導案作成①	
第3回		算数科の授業の組み立て	教材研究②58	指導案作成②	
第4回		指導計画と評価計画	指導計画②261	指導案作成③	
第5回		指導計画と評価計画	評価計画②264	指導案作成④	
第6回		本時の指導と板書計画	本時の目標②263	指導案作成⑤	
第7回		本時の展開	本時の指導②280	指導案作成⑥	
第8回		本時の指導と板書計画	板書計画②284－288	指導案作成⑦	
第9回		算数科の実態把握の方法②260 授業づくりのポイント242－323			レポート下書き
第10回		図形の領域			
第11回		測定の領域	変化と対応の領域	指導案提出	
第12回		データの活用の領域	指導案検討①		
第13回		指導案検討②	指導案検討③		
第14回		指導案検討④	指導案検討⑤		
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	提出物 提出期限		
		10点	授業態度		
10点		指導案			
備考		よりより授業を創ろうと改善を重ねる努力を評価します。			

2025年度「後期」		(講義)		科目名:理科指導法		講師: 奥村 一成	
科目概要・目標		国際化や高度情報化が進む今日では、科学技術の進展が目覚ましく、地球温暖化や環境汚染への関心も高まっている。しかしながら、わが国では次世代を担う若者の理科離れが深刻な問題となっている。この科目の授業では、そのような状況を踏まえた上で、小学生の頃から理科に興味を持ってもらうための指導法について勉強する。 また、「小学校の各学年の理科の目標と内容」や「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い」についても学び、教員採用試験に合格できる実力を身に付ける。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。					
教科書		文科省「小学校学習指導要領解説 理科編」(大日本図書)					
提出課題	レポート設題1	「小学生の理科離れを防ぐための方法」について「小学校理科の目標と内容」を踏まえた上で、述べよ。					
	学修のポイント1	「第3学年の理科の目標と内容」の概要について					
	学修のポイント2	「第4学年の理科の目標と内容」の概要について					
	学修のポイント3	「第5学年の理科の目標と内容」の概要について					
	学修のポイント4	「第6学年の理科の目標と内容」の概要について					
	学修のポイント5	「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い」の概要について					
	学修のポイント6	「実生活・実社会との関連を重視する内容」の概要について					
期末試験		授業中に指示					
回数		授業内容					
第1回		学習指導要領改訂の経緯と理科改訂の趣旨					
第2回		レポート対策① 小学校理科の目標と内容					
第3回		レポート対策② 「理科離れ」とその原因					
第4回		レポート対策③ 理科好きにさせる手立て					
第5回		レポート対策④ 下書き作成					
第6回		科目終了試験対策 学修のポイント1 「第3学年の理科の目標と内容」の概要について					
第7回		科目終了試験対策 学修のポイント2 「第4学年の理科の目標と内容」の概要について					
第8回		科目終了試験対策 学修のポイント3 「第5学年の理科の目標と内容」の概要について					
第9回		科目終了試験対策 学修のポイント4 「第6学年の理科の目標と内容」の概要について					
第10回		科目終了試験対策 学修のポイント5 「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い」の概要について					
第11回		科目終了試験対策 学修のポイント6 「実生活・実社会との関連を重視する内容」の概要について				学習指導案	
第12回		観察・実験の基本的な留意点				模擬授業①②	
第13回		指導技術と評価、教材研究と教材開発 模擬授業③④					
第14回		まとめと期末試験対策				模擬授業⑤	
第15回		期末試験					
第16回		科目終了試験					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。				
	期末試験	30点	持込不可				
	授業内評価	20点	課題(レポート・学修のポイント) 期日厳守(提出期限に遅れた場合は減点)				
20点		誠実で積極的な授業態度重視					
備考		1限目の授業ですが、無遅刻・無欠席で頑張ってください。私語・居眠り厳禁。携帯電話の電源は切っておくこと。提出物が提出期限に遅れた場合は減点します。					

(講義)		科目名:発達心理学		講師: 木村洋太	
科目概要・目標	従来、発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では、死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目され始めている。また、高齢者だけでなく障害児(者)の発達も考えていく必要があり、精神医学や福祉など周辺分野との連携の必要性も高まっている。そこで、本科目では、各ライフステージにおける発達課題や、障害や虐待など発達を阻害する要因について学び、生涯を見通した支援ができるようになることを目標とする。				
教科書		無藤隆、他『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房。			
提出課題	レポート設題1	乳幼児期から老年期に至るまでのライフステージのどれかを選んで発達の的な特徴をまとめ、その段階に起こりがちな危機を1つ挙げて、対応について考察せよ。 ＜ポイント＞人間が社会との関わりの中でどのように発達していくかに着目しながら考察すること。			
	レポート設題2 (清書は心理のみ)	虐待と発達の障害との関係について述べよ。 ＜ポイント＞乳幼児期の不適切な環境は子どもの発達に著しい影響を与える。被虐待児の半数弱に発達障害が伴うという現状をふまえて、その理由や対策を考察すること。			
	学修のポイント1	ライフサイクルからみた人間の発達について。			
	学修のポイント2	発達のメカニズムについて			
	学修のポイント3	ライフサイクルにおける発達の問題について			
	学修のポイント4	発達障害について			
	学修のポイント5	認知機能の発達について			
	学修のポイント6	乳児期における愛着形成について			
期末試験		発達における問題について			
回数		授業内容			
第1回		エリクソンのライフサイクルについて、発達基礎			
第2回		発達障害について 家族理解も含めて			
第3回		発達障害の詳説			
第4回		障害の違いと教育支援のあり方			
第5回		乳児から老年期の発達②			
第6回		乳児から老年期の発達③			
第7回		乳児から老年期の発達④			
第8回		乳児から老年期の発達⑤			
第9回		愛着の理論について			
第10回		愛着の役割			
第11回		子育ての難しさと虐待について、その後の影響について			
第12回		ピアジェの認知発達理論①			
第13回		ピアジェの認知発達理論②			
第14回		発達を支える大人の役割			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	論述式。持ち込み可。		
	授業内評価	30点	授業態度、レポート課題への取り組み(期限厳守、添削からの修正努力)などを総合的に評価する		
備考		授業では、子どものビデオや障害のビデオなどをみながら、理解を深めます。			

(講義)		科目名:教養基礎講座		講師:室山・山田	
科目概要・目標	近い将来、教員採用試験で出題される一般教養の試験対策を意識して問題演習を行う。各問題を解析していく中で、確実な得点力を身につけるために必要な知識や解法について注目していきたい。なお、このような問題演習は最終学年になってから始めていてはとても試験には間に合わないことは明白である。したがって時間をかけてこうした問題を解き進め、学習を地道に積み上げていきたい。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表。			
回数		授業内容			
第1回		社会科学・人文科学①			
第2回		自然科学①			
第3回		社会科学・人文科学②			
第4回		自然科学②			
第5回		社会科学・人文科学③			
第6回		自然科学③			
第7回		社会科学・人文科学④			
第8回		自然科学④			
第9回		社会科学・人文科学⑤			
第10回		自然科学⑤			
第11回		社会科学・人文科学⑥			
第12回		自然科学⑥			
第13回		社会科学・人文科学⑦			
第14回		自然科学⑦			
第15回		社会科学・人文科学⑧			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:レクリエーション理論		講師:山口榮三	
科目概要・目標	健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などに関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。 授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。				
	教科書	日本レクリエーション協会編著『楽しさをとおした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～』日本レクリエーション協会、2017。 参考文献:必要に応じて授業内でプリントを配布する。			
期末試験	後日指示				
回数	授業内容				
第1回	ガイダンス(講義概要の説明)				
第2回	レクリエーションの支援とは レクリエーション・インストラクターの2つの役割				
第3回	レクリエーション・インストラクターの2つの役割				
第4回	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気 1. 楽しさをとおした心の元気づくりの理解				
第5回	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気 2. ライフスタイルと心の元気づくり				
第6回	子どもや高齢者の心の元気づくり／障がいのある人の心の元気づくり				
第7回	レクリエーション支援の理論 1. コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 ▶気持ちをひとつにするための意思疎通				
第8回	レクリエーション支援の理論 2. コミュニケーションと信頼関係づくりの理論▶意思疎通の方法				
第9回	レクリエーション支援の理論 3. 対象者との信頼関係 ▶信頼関係 ▶お互いに分かり合っていると思えるようにする方法				
第10回	レクリエーション支援の理論 4.信頼関係づくりの方法▶ホスピタリティ▶対象者の気持ちを受け止める・受け止めていることを伝える				
第11回	良好な集団づくりの理論 1. 集団づくりの理解 ▶数の集まりから心の元気づくりを助け合える集まり				
第12回	良好な集団づくりの理論 集団内のコミュニケーションの促進 ▶集団の成長を見通したかかわり方▶コミュニケーションを段階的に促進する				
第13回	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論 1. 自主的、主体的にレクリエーション活動を楽しむ力 2. 成功体験を支え合う対象者のかかわり				
第14回	レクリエーション活動の安全管理				
第15回	まとめ				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点			
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	20点	レポート:提出期限までに作成できたか、自分の言葉でまとめられているかで判断します。		
		10点	実技:すすんで授業に参加しているか、体を動かしての行動等で判断します。		
		10点	授業態度:本学ルール、マナーにそって、意欲的に授業を受けていたかどうかで判断します。		
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。 遅刻は15分まで。その後は欠席となります。遅刻3回で欠席1回。				

(講義)		科目名:教職教養演習Ⅰ(算数)		講師: 松村久美子	
科目概要・目標	本科目は教職や教員試験へ対応できる基礎力や応用力の育成を図ることを目指す。テキストに沿いながら、基本問題、重要問題、頻出問題や過去の教採問題を解き、解法を知る。個々の学生が、高校までで培った算数、数学の学習内容について欠落していたり苦手な単元を自覚し、具体的な 改善点・学習方法を見出し、教育実習や教員採用試験に対応できる確かな算数の学力を培う。				
教科書	教員採用試験対策 参考書 問題集 セサミノート(東京アカデミー)				
期末試験	定着度 学習指導要領＋学習内容の確認テスト(参・セ・問)				
回数	授業内容				
第1回	四則混合計算				
第2回	因数分解				
第3回	平方根				
第4回	公倍数と公約数・記数法				
第5回	数列				
第6回	方程式・不等式				
第7回	二次方程式				
第8回	一次関数				
第9回	二次関数				
第10回	角と平行線				
第11回	三角形				
第12回	円の性質				
第13回	図形の求積 図形の展開				
第14回	確率				
第15回	データの活用				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	10点	テキスト等の持ち物		
		15点	授業中の態度		
15点		サブノート・問題集への取り組み			
備考	期末試験は参考書・セサミ・問題集から出題します。指導計画に書いていない「指導法に関する問題」など算数の全範囲から出題しますので、授業で扱わなかった問題についても家庭学習で計画的に取り組んでください。備考欄の問題番号は家庭学習の目安です。毎回確認テストをします。				

2025年度 後期

(講義)		科目名: 社会科指導法		講師: 山田哲史	
科目概要・目標		小学校社会科の指導方法について具体的な資料等を通して学び、実践的な指導力を身につける。そのために、まず小学校社会科及び学年の目標と内容について再確認する。次に、各学年の年間計画と各単元の指導計画の作成について具体的に学習する。そして、これらの学習を踏まえ、児童が社会的事象に興味・関心をもって主体的に社会科の授業に取り組み、確かな学力を身につける問題(課題)解決学習などの指導法に重点を置いて学習する。また、総合的な学習の時間との関連についても学ぶ。			
教科書		文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」東洋館出版、2018年。			
提出課題	設題 1	社会的事象に興味・関心をもって取り組み、確かな学力を身につける社会科授業のあり方について述べよ。			
	学修のポイント1	小学校社会科でねらう公民的資質の基礎について			
	学修のポイント2	小学校社会科の年間指導計画作成のポイントについて			
	学修のポイント3	小学校社会科における単元の指導計画作成のポイントについて			
	学修のポイント4	社会科における問題解決学習について			
	学修のポイント5	小学校社会科における体験的な学習について			
	学修のポイント6	小学校社会科と総合的な学習の時間との関連について			
期末試験		(授業時に指示します。)			
回数	授業内容				
第1回	児童の社会的事象への興味・関心について				
第2回	児童が確かな学力を身につけるために				
第3回	社会科授業のあり方について				
第4回	小学校社会科における体験的な学習について①				
第5回	小学校社会科における体験的な学習について②				
第6回	社会科における問題解決学習について①				
第7回	社会科における問題解決学習について②				
第8回	小学校社会科でねらう公民的資質の基礎について①				
第9回	小学校社会科でねらう公民的資質の基礎について②				
第10回	年間指導計画作成のポイントについて				
第11回	単元の指導計画作成のポイントについて				
第12回	総合的な学習の時間との関連について				
第13回	社会科模擬授業の試み①				
第14回	社会科模擬授業の試み②				
第15回	期末試験実施				
第16回	科目終了試験実施				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持込み許可物件:指定の教科書、自筆のノート、授業時に配布のプリント		
	授業内評価	20点	授業中態度:携帯、居眠り、私語、飲食は厳禁		
		20点	課題提出状況		
備考		教育の効果を高めるためにも、授業には集中力を持続して積極的に取り組むようにしてください。授業中の携帯電話の使用、居眠り、飲食や私語は禁止します。これらのルールを守ることができない学生に対しては不合格とすることがありますので注意してください。			

(講義)		科目名:体育		講師: 山口榮三	
科目概要・目標	小学校教育課程における体育授業の基本的考え方や運動指導に必要な基本的知識を理解し(R)、各領域(体づくり運動、器械運動、陸上運動、ゲーム・ボール運動、表現運動、保健学習等)の特性を踏まえ実技を行う(S)。スクーリングについては実技中心の授業であり、適宜講義とディスカッション形式を取り入れる。				
教科書		文部科学省『小学校学習指導要領 体育編』東洋館出版 (参考文献)高橋健夫『新版 体育科教育学入門』大修館書店			
提出課題	レポート設題1	体育の目標、特性、領域を整理し、体育学習において子どもに身に付けさせたい内容について述べよ。 ＜ポイント＞ ・学習指導要領(体育)の目標を的確に把握する。 ・他教科には無い体育科の特性を整理する。 ・特性を踏まえ、体育学習で期待できる子どもたちの変容について具体的に記述する。			
	学修のポイント1	現代日本における体育科教育の重要性について			
	学修のポイント2	新体力テストの目的と、子どもの体力との関連性について			
	学修のポイント3	体づくり運動の内容及指導方法について			
	学修のポイント4	器械運動領域における段階的な指導について			
	学修のポイント5	小学校体育におけるボールゲームの指導方法について			
	学修のポイント6	小学校体育における保健学習の指導について			
期末試験		(後日連絡します)			
回数		授業内容			
第1回		現代日本における体育科教育の重要性について教科書をもとに整理する。			
第2回		新体力テストの目的と、子どもの体力との関連性について			
第3回		「体力づくり運動」ための内容及指導方法についてのポイントを教科書等の実践例をもとに整理する。(1)			
第4回		「体づくり運動」のための内容及指導方法について(2)			
第5回		(1)「機械運動領域」における段階的な指導のポイントを教科書等の実践例をもとに整理する(跳び箱運動「開脚跳び」を中心として)。			
第6回		(2)「機械運動領域」における段階的な指導のポイントを教科書等の実践例をもとに整理する(鉄棒運動「逆上がり」を中心として)。			
第7回		「小学校体育におけるボールゲーム」の指導方法のポイントを教科書等の実践例をもとに整理する。			
第8回		「保健学習」の教材配列を整理し、指導法について考察する。			
第9回		(1)実技「ボール運動」(ゴール型①)の典型教材を実技研究する。			
第10回		(2)〃 (ゴール型②)の典型教材を実技研究する。			
第11回		(3)〃 (ベースボール型①)の典型教材を実技研究する。 (4)〃 (ベースボール型②)の典型教材を実技研究する。			
第12回		「表現運動」や「ダンス」の教材やその指導法について教科書を参考にしながら整理する。			
第13回		「表現運動」や「ダンス」の教材やその指導法について教科書を参考にしながら整理する。			
第14回		実技授業まとめ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	20点	レポート:提出期限までに作成できたか、自分の言葉でまとめられているかで判断します。		
		10点	実技:すすんで授業に参加しているか、体を動かしての行動等で判断します。		
10点		受講態度:本学のルール、マナーにそって、意欲的に授業を受けていたかどうかで判断します。			
備考		レポート下書・清書及び課題は学校指定の期日までに提出するようにしてください。期日は厳守です。授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。遅刻は15分まで。その後は欠席となります。遅刻3回で欠席1回。天候等で予定を変更する場合があります。			

教育学科

教育学認定心理士コース

3年生

(講義)		科目名:教育相談(カウンセリングを含む)		講師: 平石 太一
科目概要・目標	教育相談は、現在の学校教育のすべての活動のなかで幅広く実践されており、教師にとって不可欠な資質である。そこで、学校における教育相談とは何か、生徒指導上の有効性、学級経営上の有効性などを理論、技法・態度などの体験を通して学習していく。内容は、来談者中心カウンセリング、行動カウンセリング、グループカウンセリング等の理論、技術を、講義やロールプレイ(役割演技)を実施しながら、一人ひとりが確実に体得するよう進めていく。			
教科書		石川正一郎 他『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房		
提出課題	設題 1	開発的カウンセリングの意義について述べよ。＜ポイント＞開発的カウンセリングは、問題が生じる前に、児童生徒の対人関係や自己意識の発達を促し、問題の生じる可能性を少しでも小さくすることを目的に生み出されたカウンセリングである。そこで、学校における担任を中心として行われる開発的カウンセリングのポイントを押さえ、この上に構成的グループ・エンカウンター、アサーションなどの実際の取り組みについて、その意義をまとめることができる。		
	学修のポイント1	児童生徒理解について		
	学修のポイント2	学校における教育相談の進め方について		
	学修のポイント3	不登校問題への対応について		
	学修のポイント4	いじめ問題への対応について		
	学修のポイント5	クライアント中心療法と傾聴について		
	学修のポイント6	保護者面接のあり方について		
期末試験		授業中での重要ポイントを中心に出題。		
回数		授業内容		
第1回		オリエンテーション		
第2回		クライアント中心療法について		
第3回		教育相談の進め方について		
第4回		開発的カウンセリング①		
第5回		開発的カウンセリング②		
第6回		開発的カウンセリング③		
第7回		児童生徒理解①		
第8回		不登校		
第9回		いじめ		
第10回		保護者面接		
第11回		児童生徒理解②		
第12回		教育アセスメント		
第13回		その他、教育相談に関わる諸問題		
第14回		まとめ		
第15回		期末試験		
第16回		科目終了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験	30点	論述内容	
	授業内評価	40点	課題の提出状況、課題・授業への取り組み状況などを総合的に評価します。	
備考		私語等、他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。		

(実技)		科目名：音楽実技ⅡC		講師：花井 淑	
科目概要・目標	保育・教育の現場で幼児・児童が生き生きと生活し、友達と仲良く遊んだり、仲間を思いやる心を育てる事ができる環境を音楽を通して作り、また、安心して園や学校、施設等での生活が楽しくできるようにするため、幼児や児童達の成長に即した音楽を提供できるように学ぶ。そのため、学生各人は、自分の音楽の素養と技量を向上させるよう、基礎的な事柄から高度の技術(ペダリング等)を、ピアノや声楽の練習によって学ぶ。バイエル未終了者は、終了することに重点を置く。				
教科書	「バイエルピアノ教則本」、「わかりやすい音楽表現入門」、配布楽譜、等				
期末試験	ピアノ実技試験				
回数	授業内容				
第1回	ガイダンス(楽器の扱い方、教室でのマナー、授業の進め方、進度調べ、等)。 ピアノ実技。				
第2回					
第3回	バイエル80～106 の未終了曲		弾き歌い①	・ぞうさん ・春がきた	
第4回					
第5回	〃		〃	・さんぽ ・虫のこえ	
第6回					
第7回	〃		〃	・もりのくまさん ・タやけこやけ	
第8回					
第9回	〔 中間試験： バイエル80～106 から1曲 と、 弾き歌い1曲 〕 自由選択。				
第10回					
第11回	バイエル80～106 の未終了曲		弾き歌い②	・いぬのおまわりさん ・茶つみ	
第12回					
第13回	〃		〃	・あめふりくまのこ ・春の小川	
第14回					
第15回	〃		〃	・アイアイ ・きよしこの夜	
第16回					
第17回					
第18回	〔 中間試験： バイエル80～106 から1曲 と、 弾き歌い1曲 〕 自由選択。				
第19回					
第20回	バイエル80～106 の未終了曲		弾き歌い③	・おもちゃのチャチャチャ	
第21回					
第22回					
第23回	〃		〃	・ふしぎなポケット	
第24回					
第25回	バイエル80～106 の未終了曲		弾き歌い④	・カレンダーマーチ	
第26回					
第27回	〃		〃	・ふるさと ・さくらさくら	
第28回					
第29回					
第30回	〔 後期 まとめ・発表 〕				
第31回	〔 期末試験： バイエル80～106 から1曲 と、 弾き歌い1曲 〕 自由選択。				
第32回					
単位取得にあたり		バイエルは終了することに重点を置き、終了した学生はさらに上を目指すように努める。			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	10点	課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は70%とする。		
	授業内評価	20点	中間テスト：10点×2回 課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は70%とする。		
		10点	バイエル：5点×2曲		
		20点	弾き歌い：5点×4曲 ただし正伴奏で弾けること（和音伴奏の場合は5曲）		
		10点	発表：未発表のもの、ただし、試験で弾いたものは可。		
		減点	忘れ物：減点とする（1回1点 減点）		
備考	弾き歌いは、教科書、または他楽譜より4曲（未合格のもの）以上を選択				

(講義)		科目名:総合的な学習の時間の指導法		講師: 奥村 一成	
科目概要・目標	「総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、実社会・実生活の課題をよりよく解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す」学習であることを理解し、児童に指導できるようにするための探究学習に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学校において編成する指導計画や指導方法のあり方、考え方を習得し、実践できる資質・能力を身に付けるようにする。 到達目標は、次の三点とする。1. 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。2. 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。3. 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。				
教科書		土屋修「総合的な学習の時間」の理論と実際」学術図書出版社 文部科学省 小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」東洋館出版社			
提出課題	レポート設題 1	教育課程における総合的な学習の時間の意義や目的についてふれ、総合的な学習の時間の目標の実現に向けて重視すべき事について、論述しなさい。			
	学修のポイント1	総合的な学習の時間が設けられた意義と目的について			
	学修のポイント2	各学校において定める目標・内容について			
	学修のポイント3	総合的な学習の時間で育成すべき資質・能力について			
	学修のポイント4	目標を実現するにふさわしい探究課題とは何か			
	学修のポイント5	総合的な学習の時間の指導計画作成で配慮すべき事は何か			
	学修のポイント6	総合的な学習の時間の学習指導と評価について			
期末試験		(授業中に指示します。)			
回数		授業内容			
第1回		今、求められている力。			
第2回		科目終了試験対策 学修のポイント1 総合的な学習の時間の意義と目的について			
第3回		総合的な学習の時間の目標			
第4回		教育課程において果たす役割			
第5回		科目終了試験対策 学修のポイント3 総合的な学習の時間で育成すべき資質・能力について			
第6回		各学校が定める総合的な学習の目標			
第7回		科目終了試験対策 学修のポイント2 各学校で定める総合的な学習の目標・内容について			
第8回		総合的な学習の時間の学習指導			
第9回		総合的な学習の時間の評価 指導計画の発表と分析1			
第10回		科目終了試験対策 学修のポイント4 総合的な学習の時間の探究課題とは何か 指導計画の発表と分析2・模擬授業1			
第11回		科目終了試験対策 学修のポイント5 総合的な学習の時間の指導計画作成で配慮すべき事は何か 指導計画の発表と分析3・模擬授業2			
第12回		総合的な学習の時間の学習計画の作成 指導計画の発表と分析4・模擬授業3			
第13回		科目終了試験対策 学修のポイント6 総合的な学習の時間の学習指導と評価について 指導計画の発表と分析5・模擬授業4			
第14回		期末テスト対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	授業中に指示 持ち込み不可		
	授業内評価	20点	課題(レポート・学修のポイント) 期日厳守(提出期限に遅れた場合は減点)		
		20点	誠実で積極的な授業態度重視		
備考		1限目の授業ですが、無遅刻・無欠席で頑張ってください。私語・居眠り厳禁。携帯電話の電源は切っておくこと。 授業態度が悪く、改善が認められないときは、不合格とします。			

2025年度 後期

(講義)		科目名:教養演習Ⅱ		講師:室山俊浩	
科目概要・目標	公務員試験、就職試験(SPI)対策として、出題される問題を中心に解き方を学習する。 なお、外部の講師による就職対策講座が入る可能性がある。				
教科書		適宜プリントを使用する。			
期末試験		授業で扱った問題から出題。			
回数		授業内容			
第1回		問題演習			
第2回		問題演習			
第3回		問題演習			
第4回		問題演習			
第5回		問題演習			
第6回		問題演習			
第7回		問題演習			
第8回		問題演習			
第9回		履歴書・面接対策講座 (マイナビ)			
第10回		学園祭読み替え(休講)			
第11回		学内企業・法人説明会(musbun)			
第12回		学園祭読み替え(休講)			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		問題演習			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	授業で扱った問題から出題する。持ち込み不可。		
	授業内評価	30点	授業内態度		
備考					

(講義)		科目名:教職教養演習Ⅱ(理科)		講師: 奥村 一成	
科目概要・目標	教員採用試験の小学校全科のうち、学習指導要領(理科)と理科についての出題を予想して演習を行う。				
教科書		参考書:過去問(2025年度)			
期末試験		授業内で指示します。			
回数		授業内容			
第1回		学習指導要領における「理科の目標と各学年の内容」			
第2回		学習指導要領における「理科の指導計画の作成と内容の取扱い」			
第3回		物質・エネルギー(物理分野Ⅰ)			
第4回		物質・エネルギー(化学分野Ⅰ)			
第5回		生命・地球(生物分野Ⅰ)			
第6回		生命・地球(地学分野Ⅰ)			
第7回		物質・エネルギー(物理分野Ⅱ)			
第8回		物質・エネルギー(化学分野Ⅱ)			
第9回		生命・地球(生物分野Ⅱ)			
第10回		生命・地球(地学分野Ⅱ)			
第11回		物質・エネルギー(物理分野Ⅲ)			
第12回		物質・エネルギー(化学分野Ⅲ)			
第13回		生命・地球(生物分野Ⅲ)			
第14回		生命・地球(地学分野Ⅲ)			
第15回		期末試験対策			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み資料なし。		
	授業内評価	20点	課題		
		20点	受講姿勢		
備考		授業課題に向けて、実際に演習します。			

(実技)		科目名:レクリエーションワーク		講師:山口 榮三	
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。				
	教科書	①レクリエーション支援の理論と方法　楽しさをとおした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会　レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子　③県内実施の事業　＊②③の資料は山口 榮三が用意します。			
期末試験	後日指示				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	レクリエーション支援の展開方法　個別及び集団レクリエーション支援				
第3回	ウォークラリー企画　目的・テーマ設定等の企画グループミーティング				
第4回	ウォークラリー企画　コース下見　1回目				
第5回	ウォークラリー企画　コマ図作成				
第6回	ウォークラリーの実践				
第7回	レクリエーション支援実習1　支援の方法、内容についてグループミーティング				
第8回	レクリエーション支援実習2				
第9回	レクリエーション支援実習3				
第10回	レクリエーション支援実習4				
第11回	レクリエーション支援実習5				
第12回	レクリエーション支援実習6				
第13回	レクリエーション支援実習7				
第14回	レクリエーション支援実習8				
第15回	まとめ				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点			
	期末試験	30点	持ち込み:可　　論述式		
	授業内評価	30点	支援計画案の提出及びその内容で評価します。		
		10点	本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します。		
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。				

2025年度 後期

(実技)		科目名:情報処理演習Ⅰ		講師: 室山 俊浩	
科目概要・目標	コンピュータの基本操作・基本知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。				
教科書		奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』 技術評論社			
提出課題	レポート設題1	最近一ヶ月以内にインターネットで起きた事件のうち、興味があるものを1～2つ選び、効果的な対策と自身の考えを述べよ。			
	レポート設題2	インターネットの光と影について、それぞれ、具体的な例を挙げて述べよ			
	学修のポイント1				
	学修のポイント2				
	学修のポイント3				
	学修のポイント4				
	学修のポイント5				
	学修のポイント6				
期末試験		実技課題（科目終了試験を兼ねる）			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / レポート対策 設題 「インターネットで起きた事件」			
第2回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第3回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第4回		レポート対策 設題 「インターネットの光と影」 / レポート下書作成			
第5回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第6回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第7回		実技指導			
第8回		実技指導			
第9回		実技指導			
第10回		実技指導			
第11回		実技指導			
第12回		実技指導			
第13回		実技指導			
第14回		実技指導			
第15回		実技指導			
第16回		期末試験/科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	実技試験 科目終了試験を兼ねる 持ち込み不可		
	授業内評価	30点	授業内課題作成状況、内容など		
備考		レポートはWordを用いて作成する事。手書き不可。			

(講義)		科目名:図画工作科指導法		講師:山田大空	
科目概要・目標	図画工作科教育の目標、育成を目指す資質・能力、「造形的な見方・考え方」を働かせる学習内容及び学びの方法について ての概説や具体的な事例を通して、学校教育(公教育)で美術教育がおこなわれる教育的意義について理解を深めていく。併せて、授業分析や授業デザインの演習、模擬授業を通して、授業の組み立て方や評価規準設定の視点、指導案の書き方、指導方法について習得を目指す。				
教科書		藤江充、他『形・色・イメージ+これからの図画工作』日本文教出版			
提出課題	レポート設題1	表現の内容「感じたことや想像したことを絵や立体に表す」で、対象学年と題材を決め、具体的な展開例をもとに、「その子なりの多様な表現を保障する」教師の支援について述べて。			
	学修のポイント1	表現活動と鑑賞活動とのかかわりについて			
	学修のポイント2	造形遊びの価値について			
	学修のポイント3	評価方法の工夫について			
	学修のポイント4	教材研究の必要性について			
	学修のポイント5	他教科等との連携について			
	学修のポイント6	「共通事項」の捉え方とその重要性について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		【造形活動】ラーメンの絵画			
第2回		◆学修ポイント⑤作成指導			
第3回		【指導案作成】低学年向け「ライオンの絵画」			
第4回		【造形活動】3層構造の立体の街			
第5回		【指導案作成】高学年向け「3層構造の立体の街」			
第6回		★レポート下書き作成指導			
第7回		【講義】各学年の発達と造形の特徴			
第8回		【鑑賞活動】ピカソの絵画(キュビズム)の鑑賞			
第9回		【指導案作成】低学年向け「ピカソの絵画(キュビズム)の鑑賞」			
第10回		【鑑賞活動】クリムトの絵画(キュビズム)の鑑賞			
第11回		【指導案作成】高学年向け「クリムトの絵画(キュビズム)の鑑賞」			
第12回		【授業構想】「画用紙を使った立体作品」の授業を企画			
第13回		【造形活動】先週の授業についての試作			
第14回		【指導案作成】自分で対象学年を決めて指導案を作成			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	実技試験		
	授業内評価	35点	作品課題及び試作授業案・授業態度		
		15点	レポート課題		
備考					

(講義)		科目名:教職教養演習Ⅲ(教育法規)		講師: 木内正範	
科目概要・目標	本科目は、教員採用試験対策「教職教養」の教育法規の学習として、問題集(過去問題を含む)を中心に取り組み、採用試験に対応できる知識を身につけることを目指している。				
教科書	教員採用試験対策 参考書2 教職教養Ⅱ 東京アカデミー編				
期末試験	説題は事前に提示				
回数	授業内容				
第1回	学修の目的と方法(問題集の学修と確認テスト) 1.教育法規とは何か(p.134～)テキスト セサミ＝(A) (B) 確認テスト				
第2回	2.参考書2 憲法と教育基本法(p.141～)テキスト セサミ (1) (2)、確認テスト				
第3回	2.参考書2 憲法と教育基本法(p.147～)テキスト 参考書2 「1」「2」、確認テスト				
第4回	3.参考書2 学校に関する法規(p.156～)テキスト セサミ(3) (4)、確認テスト				
第5回	3.参考書2 学校に関する法規(p.170～)テキスト 参考書2 「3」「4」、確認テスト				
第6回	4.参考書2 学校教育に関する法規(p.183～)テキスト セサミ(5) (6) (7)、確認テスト				
第7回	4.参考書2 学校教育に関する法規(p.207～)テキスト 参考書2 「5」「6」「7」、確認テスト				
第8回	5.子どもに関する法規(p.221～)テキスト セサミ (8) (9)、確認テスト				
第9回	5.子どもに関する法規(p.235～)テキスト 参考書2 「8」「9」、確認テスト				
第10回	6.教職員の法規(p.252～)テキスト セサミ (11) (12)、確認テスト				
第11回	6.教職員の法規(p.271～)テキスト 参考書2 「10」「11」「12」、確認テスト				
第12回	7.教育行政、生涯教育(p.302～)テキスト セサミ (13) (14)、確認テスト				
第13回	7.教育行政、生涯教育(p.307～)テキスト 参考書2 「13」(15)、確認テスト				
第14回	問題集1より、「①憲法と教育基本法」「②学校に関する法規」「③学校教育に関する法規」、確認テスト				
第15回	問題集1より「④子どもに関する法規」「⑤教職員の法規」「⑥教育行政等の法規」確認テスト ◎期末試験の設題について				
第16回	期末試験(教科書等持ち込み不可) 60分間				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	20点	ディスカッション(私見、具体性、建設的な意見等)		
		30点	受講態度(学習意欲、質問、意見等)		
備考		1 授業では、問題文の意味を正しく理解して、文面の前後から解答のヒントを探り出し、最適と思う解答を考えてください。そして、正解と誤答をチェックしながら、正解を覚えてください。 2 教員採用試験への学習は、マラソンです。ゴールまでの距離(時間)に対して、計画的に、持続的に息の切れない走り大切です。健康管理を十分に、無理のない走り続けられるライフプランを立て、悔いのない走りをしてください。期待していますよ。			

(講義)		科目名:家庭科指導法		浅井 恭子	
科目概要・目標	「家庭科」は社会の変化とともに、その意義や目標、教育内容を大きく変容してきた教科である。本科目ではそうした歴史をふまえ、教科としての「家庭科」の意義と、小学校における「家庭科」の目標、内容、指導方法について、平成29年告示をもとに習得する。また「家庭科」から総合的な学習の時間などへの提案についても学ぶ。				
	教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋出版			
	参考書	櫻井純子、他『小学校わたしたちの家庭科5・6』開隆堂出版			
提出課題	レポート設題1	今後の社会変化への対応を考慮した家庭科の学習について述べよ。			
	学修のポイント1	家庭科における実践的な態度の育成について			
	学修のポイント2	家庭科の学習内容が大綱的に示されていることについて			
	学修のポイント3	小学校の家庭科における「基礎・基本」について			
	学修のポイント4	家庭科の学習方法の特質について			
	学修のポイント5	家庭科と「総合的な学習の時間」との関連について			
	学修のポイント6	小学校の家庭科と他教科との関連、中学校家庭科との関連について			
	期末試験	「総合的な学習の時間」との関連について別途指示する。			
	回数	授業内容			
	第1回	オリエンテーション,設題1(レポート作成に注意点を含む)			
	第2回	学修のポイント1:家庭科における実践的な態度の育成について			
	第3回	学修のポイント3:小学校家庭科における「基礎・基本」について			
	第4回	学修のポイント4:家庭科の学習方法の特質について			
	第5回	設題:社会変化への対応を踏まえた家庭科のあり方			
	第6回	設題:社会変化への対応を踏まえた家庭科のあり方			
	第7回	設題:社会変化への対応を踏まえた家庭科のあり方			
	第8回	設題:社会変化への対応を踏まえた家庭科のあり方			
	第9回	学修のポイント5:家庭科と「総合的な学習の時間」との関連について			
	第10回	指導案作成および模擬授業について			
	第11回	模擬授業の準備と作業			
	第12回	模擬授業と反省会(ディスカッション)			
	第13回	教員採用試験過去問題			
	第14回	教員採用試験過去問題			
	第15回	期末試験(持ち込み不可)			
	第16回	科目終了試験(持ち込み不可)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論述式1000字以上1200字まで		
	授業内評価	20点	授業態度(発言や質問に答える態度と実技の評価含む)		
		10点	模擬授業の意欲的な取り組み		
10点		その他提出物(期日までに提出状況等・遅れての提出は減点対象とする)			
	備考	授業中は私語や携帯電話(スマートフォン)の使用は慎むこと。飲食物も禁止。常識ある学習行為を望みます。			

(講義)		科目名:教養基礎講座		講師:室山・山田	
科目概要・目標	近い将来、教員採用試験で出題される一般教養の試験対策を意識して問題演習を行う。各問題を解析していく中で、確実な得点力を身につけるために必要な知識や解法について注目していきたい。なお、このような問題演習は最終学年になってから始めていてはとて試験には間に合わないことは明白である。したがって時間をかけてこうした問題を解き進め、学習を地道に積み上げていきたい。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表。			
回数		授業内容			
第1回		社会科学・人文科学①			
第2回		自然科学①			
第3回		社会科学・人文科学②			
第4回		自然科学②			
第5回		社会科学・人文科学③			
第6回		自然科学③			
第7回		社会科学・人文科学④			
第8回		自然科学④			
第9回		社会科学・人文科学⑤			
第10回		自然科学⑤			
第11回		社会科学・人文科学⑥			
第12回		自然科学⑥			
第13回		社会科学・人文科学⑦			
第14回		自然科学⑦			
第15回		社会科学・人文科学⑧			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(演習)		科目名: 専門実技Ⅱ(教科実技)		講師: 松村 久美子	
科目概要・目標	「確かな学力」をつける授業ができることは、教師としての資質能力である。教材研究、指導案作成、発問や板書、指示や発問、ノート指導など、個の実践と省察、受講生同士や対講師との意見・実践交換を重ねる中で実践的な授業力を培っていく。加えて教職の専門性の資質の育成を目指すために、時事や文部科学省の答申・指針、自治体の教育計画等を敏感にとらえ受講生間で共有し、各々の見解や具体化の方法を構想するなど、教職の専門家としての資質能力を培っていく。				
教科書	①小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 ②田近洵一他『小学校国語科授業研究』教育出版③松平信久他「新訂教育の方法・技術」教育出版				
期末試験	指定教材についての教材解釈とこの教材で何をどのように学ばせたいかという自身の見解を書く。(1000字)				
回数	授業内容				
第1回	国語 A 話すこと 聞くこと				
第2回	B書くこと 低学年				
第3回	B書くこと 中学年				
第4回	B書くこと 高学年				
第5回	C読むこと 文学的文章 学習課題 目標 評価項目				
第6回	教材解釈 教材(単元)について 児童観				
第7回	指導計画 漢字学習や単元テストを含む				
第8回	1の場面 範読 音読 言葉 助言読み 板書				
第9回	2の場面				
第10回	3の場面				
第11回	4の場面 指導案提出				
第12回	指導案・授業検討①				
第13回	指導案・授業検討②				
第14回	指導案・授業検討③				
第15回	伝統的な言語文化を授業する				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	10点	教育に関する話題の提供		
		10点	授業改善力		
20点		授業態度			
備考	計画ありきではなく受講生の必要、提案に可能な限り対応します。教科書3冊①②③使用日に持参ください。輪番で担当者が司会、進行し、教育に関する話題提供と共有、意見交換をします。				

(講義)		科目名:生活指導法		講師: 小河直子	
科目概要・目標	生活科の特質は、直接体験を重視した学習活動を展開し、意欲的に学習や生活ができるようにすることにある。本科目では、生活科の趣旨や目標・内容を理解した上で、2年間にわたる指導計画や学習指導案の作成を行ったり、模擬従業を行ったりするなどの具体的な実践を伴いながら生活科の指導方法について学習する。その中で、子どもが知的好奇心・探求心をもって主体的に学ぶ学習が成立するための方策について具体的に追求する。				
	教科書		①小学校新学習指導要領解説生活科編文部科学省②小学校新学習指導要領の展開生活科編明治図書③教職科目要説		
	提出課題	設題 1	学年を特定して「生活」の単元を、一つ具体的に作成せよ。 ＜ポイント＞ 教科書、「教職科目要説」を参考に作成すること。その際に、単元構成の考え方、評価および展開上の留意事項、学修展開上の留意事項について十分に検討し、単元展開計画例および指導細案例に活かすこと。		
		学修のポイント1	「生活」の目標、内容と単元構成との関連について		
		学修のポイント2	指導計画作成上の要点について		
学修のポイント3		子どもの思いや願いと教師の指導意図との接近を図ることについて			
学修のポイント4		家庭や地域および幼保との連携を重視した指導について			
学修のポイント5		「生活」の学習と他教科や総合的な学習の時間との関連について			
学修のポイント6		動物や植物へのかかわり方が深まる指導の工夫について			
期末試験		「生活科」の目標、内容と単元構成との関連について			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション・シラバスレポートの課題について理解する。			
第2回		学修ポイント1「生活」の目標や内容と単元構成構成との関連について			
第3回		学修ポイント2指導計画作成上の要点について理解する。			
第4回		学校探検または秋見つけの指導計画作成を試みる。			
第5回		学修ポイント3子どもの思いや願いと教師の指導意図との接近を図ることについて			
第6回		学修ポイント14「生活」の目標や内容と単元構成構成との関連について			
第7回		学修ポイント6動物の飼育植物の栽培の指導計画を試みる。			
第8回		季節・秋の特性を生かした指導計画の作成を試みる			
第9回		指導計画の修正を行う。レポート指導			
第10回		指導計画に従って学校生活に関連した指導案を作成を試みる			
第11回		作成した指導案にしたがって模擬授業を行う1人教科書使い方を知る			
第12回		学修ポイント5「生活」の学習と他教科や総合的な学習の時間との関連について			
第13回		1年の生活科の学習を振り返り活動を纏める。明日へジャンプ			
第14回		まとめ レポートをもとに模擬授業2人			
第15回		期末試験			
第16回		科目修了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	課題意識を持ち分かりやすく論述できたか		
	授業内評価	20点	レポート・学修ポイントの提出期限を守れたか。		
		20点	積極的に授業に参加できたか。発表話し合い教材製作		
備考					

(講義)		科目名:教職教養演習Ⅲ(教育原理・教育心理)		講師:山田哲史	
科目概要・目標	近い将来受験することとなる小学校教員採用試験を想定しながら、教職教養のうち、「教育原理」や「教育心理」に関する内容について問題演習を通して理解の幅を広げていきたい。				
教科書		指定なし(必要に応じて資料を配付します)			
参考書		指定なし(必要に応じて資料を配付します)			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/問題演習①			
第2回		問題演習②			
第3回		問題演習③			
第4回		問題演習④			
第5回		問題演習⑤			
第6回		問題演習⑥			
第7回		問題演習⑦			
第8回		問題演習⑧			
第9回		問題演習⑨			
第10回		問題演習⑩			
第11回		問題演習⑪			
第12回		問題演習⑫			
第13回		問題演習⑬			
第14回		問題演習⑭			
第15回		問題演習⑮			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	授業内評価	40点	期末テスト		
		30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			